

【経歴と著作】

村上淳一 経歴と著作

村上 淳一

平成 24 (2012) 年 9 月¹⁾

【経歴】

生年月日：昭和 8 (1933) 年 3 月 31 日

学歴：昭和 31 年 3 月、東京大学法学部第一類卒業

職歴：昭和 31 年 4 月、東京大学法学部助手

昭和 34 年 7 月、東京大学法学部助教授

昭和 44 年 7 月、東京大学法学部教授（ドイツ法講座担当）

昭和 57 年 12 月、東京大学評議員（昭和 59 年 12 月まで）

平成 3 年 4 月、東京大学教授 大学院法学政治学研究科（法学部兼担）

平成 5 年 3 月、停年により退官

平成 5 年 4 月、桐蔭学園横浜大学法学部教授（平成 9 年 3 月まで）

平成 9 年 4 月、桐蔭横浜大学法学部教授（平成 18 年 8 月まで）

平成 9 年 4 月、桐蔭横浜大学法学部長（平成 18 年 8 月まで）

平成 9 年 4 月、桐蔭横浜大学大学院法学研究科長（平成 18 年 8 月まで）

平成 13 年 12 月、日本学士院会員（終身・非常勤・特別職の国家公務員）

平成 18 年 9 月、桐蔭横浜大学終身教授

平成 24 年 3 月、桐蔭横浜大学退職

留学：昭和 39 年夏学期／39/40 年冬学期ハンブルク大学、40 年夏学期／

40/41 年冬学期チュービンゲン大学

客員教授：昭和 47 年夏学期／47/48 年冬学期、フライブルク大学

昭和 60/61 年冬学期／61 年夏学期、ベルリン自由大学

平成 5/6 年冬学期、フランクフルト大学

学会：昭和 61 年～、ドイツ比較法学会連携会員

平成元年～平成 20、「ドイツ－東アジア学術フォーラム」運営委員会委員

平成 3 年～平成 12 年、日独法学会理事長

受賞：平成 3 年 2 月、ドイツ連邦共和国・チュービンゲン大学より名誉法学博士の学位を受ける。

平成 6 年 7 月、ドイツ連邦共和国功勞勲章〈一等功勞十字章〉

平成 18 年 5 月、ドイツ連邦共和国功勞勲章〈大功勞十字章〉

【著書】

1. 『スイスにおける農地相続』、単著、昭和 38 年 3 月、農政調査委員会
2. 『ドイツの近代法学』、単著、昭和 39 年 2 月、東京大学出版会
3. 『外国法の常識』、共著、昭和 45 年 5 月（昭和 50 年改訂第 2 版）、日本評論社
4. 『ドイツ法講義』、共編著、昭和 49 年 6 月、青林書院新社
5. 『外国法の調べ方』、共著、昭和 49 年 12 月、東京大学出版会
6. Einführung in die Grundlagen des japanischen Rechts, 単著, 1974, Wissenschaftliche Buchgesellschaft
7. 『法学史』、共編著、昭和 51 年 8 月、東京大学出版会
8. 『近代法の形成』、単著、昭和 54 年 1 月、岩波書店
9. 『ゲルマン法史における自由と誠実』、単著、昭和 55 年 2 月、東京大学出版会
10. 『「権利のための闘争」を読む』、単著、昭和 58 年 11 月、岩波書店
11. 『ドイツ市民法史』、単著、昭和 60 年 1 月、東京大学出版会
12. 『西ドイツ法入門』、H.P. Marutschke との共著、昭和 63 年 2 月、有斐閣
13. Aspekte der japanischen Wirtschafts- und Rechtsgeschichte, 単著, 1988, Ostasiatisches Seminar der FU Berlin
14. Einführung in das japanische Zivilrecht: Kurseinheiten 1 und 2, 単著, 1989, FernUni Hagen
15. Besitz und Bildung—Deutsch-japanische Bürgertumsvergleiche, 単著, 1989, OAG

16. 『ドイツ現代法の基層』、単著、平成2年9月、東京大学出版会
17. 『ドイツ法入門』、H.P. Marutschke との共著、平成3年4月、有斐閣
18. 『仮想の近代』、単著、平成4年10月、東京大学出版会
19. 『ドイツ法入門』(改訂第2版)、共著、平成6年3月、有斐閣
20. 『現代法の透視図』、単著、平成8年4月、東京大学出版会
21. 『〈法〉の歴史』、単著、平成9年6月、東京大学出版会
22. 『ドイツ法入門』(改訂第3版)、共著、平成9年9月、有斐閣
23. 『ドイツ法入門』(改訂第4版)、共著、平成12年4月、有斐閣
24. 『システムと自己観察』、単著、平成12年6月、東京大学出版会
25. 『ドイツ法入門』(改訂第5版)、共著、平成14年1月、有斐閣
26. 『法律家の歴史的素養』、編著、平成15年10月、東京大学出版会
27. 『ドイツ法入門』(改訂第6版)、共著(これ以後、守矢健一が共著者に
加わり、改訂を総括担当)、平成17年4月、有斐閣
28. 『グローバル化と法』、共編著、平成18年9月、信山社
29. Globalisierung und Recht, 共編著, 2007, De Gruyter
30. 『ドイツ法入門』(改訂第7版)、共著、平成20年6月、有斐閣
31. 『ドイツ法入門』(改訂第8版)、共著、平成24年8月、有斐閣

【訳書】

1. コーイング 『近代法への歩み』、共訳、昭和44年12月、東京大学出版会
2. アーベントロート 『西ドイツの憲法と政治』、単独訳、昭和46年3月、
東京大学出版会
3. ブルンナー 『ヨーロッパ——その歴史と精神』、共訳、昭和49年1月、
岩波書店
4. ルーマン 『法社会学』、共訳、昭和52年4月、岩波書店
5. イェーリング 『権利のための闘争』、単独訳、昭和57年10月、岩波書店
6. ブライケン 『ローマの共和政』、共訳、昭和59年7月、山川出版社
7. フルッサー 『サブジェクトからプロジェクトへ』、単独訳、平成8年2月、
東京大学出版会
8. フルッサー 『テクノコードの誕生』、単独訳、平成9年3月、東京大学出
版会

9. ボルツ『意味に餓える社会』、単独訳、平成 10 年 12 月、東京大学出版会
10. ボルツ『世界コミュニケーション』、単独訳、平成 14 年 12 月、東京大学出版会
11. ルーマン『社会の教育システム』、単独訳、平成 16 年 9 月、東京大学出版会
12. ルーマン『ポストヒューマンの人間論』、単独編訳、平成 19 年 9 月、東京大学出版会
13. トイブナー編『結果志向と法思考』、共訳（共訳者小川浩三の日本語論文「論証の論証」を含む）、平成 23 年 3 月、東京大学出版会

【論文】

1. 「ドイツ普通法学の錯誤論」、単著、昭和 35 年 3 月、法学協会雑誌 76 巻 3 号
2. 「プロイセンにおける Machtspruch」、単著、昭和 36 年 4 月、法学協会雑誌 77 巻 5 号
3. 「プロイセンの都市自治とサヴィニー」、単著、昭和 37 年 9 月、法学協会雑誌 79 巻 3 号
4. 「ドイツの協同組合運動とギールケ」、単著、昭和 38 年 10 月、法学協会雑誌 80 巻 3 号
5. 「法の発展」、単著、昭和 39 年 4 月、伊藤／加藤編『現代法学入門』第 4 章、(有斐閣)、平成 17 年の第 4 版で第 4 章に「6. 世界法の展望」を追加
6. 「中世農民の〈自由〉な借地について」、単著、昭和 41 年 4 月、法学協会雑誌 82 巻 5 号
7. 「ドイツ法学の方法と民主主義」、単著、昭和 41 年 9 月、法学協会雑誌 83 巻 6 号
8. 「ドイツ〈市民社会〉の成立」、単著、昭和 44 年 8 月、法学協会雑誌 86 巻 8 号
9. 「法律の〈一般性〉について」、単著、昭和 46 年 9 月、山田還暦記念『概観ドイツ法』（東京大学出版会）
10. 「ギールケ」、単著、昭和 47 年 4 月、『法社会学講座』第 1 巻（岩波書店）

11. 「西ドイツにおける裁判官研究」、単著、昭和 48 年 3 月、『法社会学講座』第 9 卷 (岩波書店)
12. 「〈良き旧き法〉と帝国国制」(1) - (3)、単著、昭和 48 年 10 月 - 49 年 2 月、法学協会雑誌 90 卷 10, 11 号、91 卷 2 号
13. 「近代法体系の形成と〈所有権〉」、単著、昭和 50 年 2 月、法学協会雑誌 93 卷 2 号
14. 「近代的所有権概念の成立」、単著、昭和 50 年 9 月、我妻追悼『私法学の新たな展開』(有斐閣)
15. 「近代的土地所有の基本問題、概念の歴史と機能」、単著、昭和 51 年 10 月、日本土地法学会編『近代的土地所有権・入浜権』(有斐閣)
16. 「ドイツにおける法の近代化の諸類型」、単著、昭和 53 年 6 月、磯村還暦記念『市民法学の形成と展開』上 (有斐閣)
17. 「国家の概念史における帝国と領邦」、単著、昭和 54 年 3 月、吉岡／成瀬編『近代国家形成の諸問題』(木鐸社)
18. 「ヨーロッパ近代法の諸類型」、単著、昭和 54 年 9 月、平井編『社会科学への招待：法律学』(日本評論社)
19. 「倫理的自律としての私的自治」、単著、昭和 55 年 7 月、法学協会雑誌 97 卷 7 号
20. 「倫理的人格・法的人格・法人」、単著、昭和 56 年 6 月、法学協会雑誌 98 卷 6 号
21. 「ドイツにおける経済発展と私的自治」、単著、昭和 57 年 1 月、来栖古稀記念『民法学の歴史と課題』(東京大学出版会)
22. 「ドイツにおける労働者代表制度の形成」、単著、昭和 57 年 1 月、法学協会雑誌 99 卷 1 号
23. 「身分制・職能代表制・議会制」、単著、昭和 57 年 10 月、比較法研究 44 号
24. 「ドイツ市民社会と職業身分制」、単著、昭和 57 年 11 月、法学協会雑誌 99 卷 11 号
25. Bürgerliches Recht, 単著, 1982, Hammitzsch (Hrsg.), Japan-Handbuch (Steiner)
26. 「ドイツ市民社会と家族」、単著、昭和 58 年 3 月、法学協会雑誌 100 卷

3 号

27. 「ローベルト・フォン・モールとヘルマン・レースラーの社会理論」、単著、昭和 58 年 6 月、野田古稀記念『東西法文化の比較と交流』(有斐閣)
28. 「団体と団体法の歴史」、単著、昭和 58 年 6 月、岩波講座『基本法学』第 2 卷
29. 「西ドイツの経済権力と私的自治」、単著、昭和 58 年 10 月、『法学協会百周年記念論文集』第 3 卷 (有斐閣)
30. 「ヤーコプ・グリムとドイツ精神史」、単著、昭和 60 年 12 月、谷口ほか『現代に生きるグリム』(岩波書店)
31. 「ゲオルク・ジンメルにおける個人・社会・文化」、単著、昭和 61 年 9 月、片岡退官記念『古代ローマ法研究と歴史諸科学』(創文社)
32. Zur Geschichte des Begriffs ›Privatautonomie‹, 単著, 1986, Festschrift für Wolfram Müller-Freienfels (Nomos)
33. 「ナショナリズムとフェデラリズム」、単著、昭和 62 年 5 月、国家学会雑誌 100 卷 5/6 号
34. 「ロマン主義の政治思想」、単著、昭和 62 年 11 月、国家学会百年記念『国家と市民』第 2 卷 (有斐閣)
35. 「西独競争制限禁止法の思想的背景」、単著、昭和 63 年 8 月、公正取引 454 号
36. 「道徳意識と理性」、単著、平成元年 3 月、国家学会雑誌 102 卷 3/4 号
37. 「システム理論と道徳」、単著、平成元年 5 月、法学協会雑誌 106 卷 5 号
38. 「現代法分析の視角」、単著、平成 2 年 1 月、法学協会雑誌 107 卷 1 号
39. Die Glaubensfreiheit und die Trennung von Staat und Religion, 単著, 1990, Coing u.a. (Hrsg.), Die Japanisierung des westlichen Rechts (Mohr Siebeck)
40. Die Vor- und Postmoderne im Recht der Gegenwart, 単著, 1990, Bericht der Deutsch-Japanischen Juristenvereinigung Nr.4
41. 「争いと社会発展」、単著、平成 2 年 2 月、『平野古稀祝賀論文集』下 (有斐閣)
42. 「社会主義体制の崩壊と〈非共産党左翼〉の課題——ユルゲン・ハーバマスの展望」、単著、平成 2 年 10 月、思想 10 月号

43. 「近代化と合理主義・反合理主義」、単著、平成3年10月、北大法学論集 41 卷 5/6 号
44. 「歴史と偶然」、単著、平成3年10月、国家学会雑誌 104 卷 9/10 号
45. 「ヨーロッパの近代とポストモダン」、単著、平成4年10月 (村上『仮想の近代』に初出)
46. 「ポストモダンの法理論」、単著、平成5年6月、岩波講座『社会科学の方法』第6巻
47. 「科学技術の水準と裁判——ドイツの実務と法理論」、単著、平成5年9月、法曹時報 45 卷 9 号
48. 「議論と自己修正」、単著、平成5年10月、海老原編『法の近代とポストモダン』(東京大学出版会)
49. 「ポストモダンの法秩序」、単著、平成6年4月、日本法社会学会『法秩序の近代と現代』
50. Das japanische Unternehmen im Wandel der Wirtschaftsverfassung, 単著, 1994, Coing u.a. (Hrsg.), Staat und Unternehmen aus der Sicht des Rechts (Mohr Siebeck)
51. 「包摂技術とコミュニケーション」、単著、平成6年9月、桐蔭法学 1 卷 1 号
52. 「〈宴のあと〉事件と〈メフィスト〉事件 (上、中、下)、単著、平成6年6-8月、UP 260-262 号
53. Argumentation und Abwägung, 単著, 1994, Menkhaus(Hrsg.), Das Japanische im japanischen Recht (judicium)
54. Rechtsquellen und Institutionen, 単著, 1994, Baum/Drobnig (Hrsg.), Das japanische Handels- und Wirtschaftsrecht (de Gruyter)
55. 「文字文化の衰弱と法の変容」、単著、平成7年3月、大阪市大法学雑誌 91 卷 4 号
56. 「仮想現実としての社会秩序」、単著、平成7年3月、桐蔭法学 1 卷 2 号
57. 「加藤弘之と社会進化論」、単著、平成7年7月、石井／樋口編『外から見た日本法』(東京大学出版会)
58. Ein japanischer Mephisto, 共著, 1995, KritV. Jg.77
59. 「会社の法人格」、単著、平成8年3月、桐蔭法学 2 卷 2 号

60. 「ポストモダニズムと責任感」、単著、平成 8 年 6 月、UP 284 号
61. Von der Halbfeudalität zur Demokratie, 単著, 1996, Diestelkamp u.a. (Hrsg.), Zwischen Kontinuität und Fremdbestimmung (Mohr Siebeck)
62. Sozialdarwinismus im Japan der Meiji-Zeit. Eine konservative Wende des Frühliberalismus?, 単著, 1996, Recht in Japan, Heft 10
63. 「現代法理論と民法典」、単著、平成 9 年 3 月、比較法研究 58 号
64. 「転換期の法思考」、単著、平成 9 年 3 月、桐蔭法学 3 卷 2 号
65. 「罪咎・謝罪・責任」、単著、平成 9 年 10 月、UP 300 号
66. Kollektivschuld und Kollektivhaftung, 単著, 1997, Rechtshistorisches Journal 16
67. Die Rechtspersönlichkeit der Handelsgesellschaften, 単著, 1997, Freundesgabe Fritz Kübler (C. F. Müller)
68. 「思想家ヴィレム・フルッサーの多文化的背景」、単著、平成 10 年 3 月、山口古希記念『現代ヨーロッパ法の展望』（東京大学出版会）
69. 「ドイツにおける裁判官の事件処理」、単著、平成 10 年 7 月、桐蔭法学 5 卷 1 号（「裁判官の事件〈構成〉」と題して村上『システムと自己観察』に収録）
70. Neue Medien und juristische Methodenlehre in zwei Rechtskulturen, 単著, 1998, Nörr u.a. (Hrsg.), Das Recht vor der Herausforderung eines neuen Jahrhunderts: Erwartungen in Japan und Deutschland (Mohr Siebeck)
71. 「〈法の解釈〉と〈構成主義〉」、単著、平成 11 年 7 月、桐蔭法学 6 卷 1 号（村上『システムと自己観察』に収録）
72. 「〈司法制度改革・法学教育改革〉管見」、単著、平成 11 年 11 月、UP 325 号
73. 「ジョージ・スペンサー・ブラウンとニクラス・ルーマン」、単著、平成 12 年 2 月、桐蔭法学 6 卷 2 号（村上『システムと自己観察』に収録）
74. 「〈差異の寄生者〉としての個人」、単著、平成 12 年 7 月、桐蔭法学 7 卷 1 号
75. Recht und Fiktion. Eine fächerübergreifende Untersuchung durch einen japanischen Rechtsgelehrten, 単著, 2001, Festschrift für Hans Stoll

(Mohr Siebeck)

76. 「貴族サヴィニーの民事訴訟」、単著、平成 15 年 2 月、桐蔭法学 9 巻 2 号
77. Justiz und Juristenausbildung in Japan, 単著, 2003, Festschrift für Knut Wolfgang Nörr (Böhlau)
78. 「サヴィニーの民事訴訟」、単著、平成 15 年 9 月、日本学士院紀要 58 巻 1 号
79. 「グローバル化と法」、単著、平成 17 年 10 月、日本学士院紀要 60 巻 1 号
80. 「歴史的意味論の文脈におけるグローバル化と法」、単著、平成 18 年 9 月、村上・マルチュケ編『グローバル化と法』、信山社
81. Globalisierung und Recht im Kontext der geschichtlichen Semantik, 単著, 2007, Murakami/Marutschke/Riesenhuber (Hrsg.), Globalisierung und Recht (De Gruyter)

【訳稿】

1. ラートブルフ「五分間の法哲学」、単独訳、昭和 36 年 7 月、『ラートブルフ著作集』第 4 巻、東京大学出版会
2. デレ「ドイツにおける立法過程」、単独訳、昭和 37 年 1 月、法学協会雑誌 78 巻 5 号
3. ヴェルディンガー「株式法の発展と改正」、単独訳、昭和 42 年 6 月、法学協会雑誌 84 巻 6 号
4. ミュラー「ドイツ連邦共和国における憲法裁判権」、単独訳、昭和 44 年 3 月、法曹時報 21 巻 3 号
5. ケメラ「法典と裁判官法」、共訳、昭和 52 年 6 月、日独法学 1 号
6. ケッツ「比較法の将来の課題」、単独訳、昭和 55 年 10 月、比較法研究 42 号
7. シュトル「ドイツ連邦共和国における国際私法と民事訴訟法の最近の発展について」、単独訳、昭和 56 年 12 月、日独法学 5 号
8. リンク「近世ドイツ国家思想における〈神の法〉」、単独訳、昭和 57 年 5 月、ハルトウングほか・成瀬治編訳『伝統社会と近代国家』（岩波書店）

9. ベッケンフェルデ「一九世紀ドイツ立憲君主政の国制類型」、単独訳、昭和 57 年 5 月、ハルトゥングほか・成瀬治編訳『伝統社会と近代国家』（岩波書店）
10. クレッシェル「司法事項とポリツァイ事項」、単独訳、昭和 57 年 9 月、法学協会雑誌 99 卷 9 号
11. シュムーデ「ドイツ連邦共和国における最近の法政策の諸問題」、単独訳、昭和 57 年 9 月、日独法学 6 号
12. レーヴェンハイム「カルテル法上の差別禁止の問題点」、単独訳、昭和 57 年 9 月、日独法学 6 号
13. ヴァイヤース「私法における配分的正義と公共的利益の諸問題」、単独訳、昭和 59 年 8 月、法学協会雑誌 101 卷 8 号
14. グロースフェルト「比較法の限界」、単独訳、昭和 60 年 12 月、日独法学 9 号
15. ヴァーレンドルフ「ドイツ・ヨーロッパ統合・西側の自由」、単独訳、昭和 63 年 3 月、日独法学 11 号
16. フォン・マルシャル「ヨーロッパにおける製造物責任」、単独訳、平成 5 年 3 月、日独法学 16 号
17. ラデーア「規制主義と経済分析主義を越えて」、単独訳、平成 5 年 6 月、岩波講座『社会科学の方法』第 6 巻
18. トイブナー「法の自己塑成は如何に経験的か」、単独訳、平成 7 年 6 月、思想 1995 年 6 月号
19. イェルゲス「ドイツの契約法とヨーロッパの統合」、単独訳、平成 12 年 7 月、日独法学 19 号
20. リッター「権力の魔性」(序と第 2 章)、単独訳、平成 14 年 3 月、藤沢ほか訳『マキアヴェッリ全集・補巻』（筑摩書房）
21. ヴェーゲナー「ドイツの議員生活」、単独訳、平成 14 年 12 月、議会政治研究 64 号
22. トイブナー「別々のものの複合：契約でも組織でもないネットワークの法」、単独訳、平成 17 年 9 月、法曹時報 57 卷 9 号
23. トイブナー「別々のものの複合：契約でも組織でもないネットワークの法」(短縮版)、単独訳、平成 18 年 3 月、同志社法学 312 号

24. トイブナー「グローバル化時代における法の役割変化——各種のグローバルな法レジームの分立化・民間憲法化・ネット化」、単独訳、平成 18 年 9 月、村上・マルチュケ編『グローバル化と法』（信山社）
25. ゴットハルト・ギュンター「〈多值的〉論理学の理論」、単独訳、平成 20 年 2 月、桐蔭法学 14 巻 2 号

【紹介】

1. Habermas, Strukturwandel der Öffentlichkeit, 1965 (ハーバマス『公共の構造変化』)、単著、昭和 42 (1967) 年 4 月、法学協会雑誌 84 巻 4 号
2. Riedel, Studien zu Hegels Rechtsphilosophie, 1969 (リーデル『ヘーゲル法哲学研究』)、単著、昭和 45 (1970) 年 10 月、法学協会雑誌 87 巻 9/10 号

【校注】

1. ブルンチュリ著／加藤弘之訳『国法汎論』首巻 緒論、単独校注、平成 3 年 9 月、日本近代思想大系『翻訳の思想』（岩波書店）

【序】

1. Junichi Murakami / Knut Wolfgang Nörr, Savignys Vorbereitung einer zweiten Auflage des „System des heutigen römischen Rechts“, 序のみ単著, 2003 (Mohr Siebeck)

【注】

- 1) 村上先生から研究室の整理が私に委ねられ、そして整理の日、書籍、書類の中から見いだしたのが、この履歴業績書である。以前に、そうした文書を残された旨うかがっていた。先生に扱いについて問い合わせたところ、必要なきがあれば、公表を含め、使用してさしつかえないので、保管しておいてもらいたいということであった。業績は、先生の全ての業績を尽くしてはいない。ここに漏れた部分は、先生が意図的に採らなかったのか、

失念されたのかなどは不明である。ただ、先生ご自身がまとめられたという史料的价值を考え、手を加えることは一切控えた。また今回の公表に際しては、ご家族のご了解もえることができた。(浅岡慶太)

(むらかみ・じゅんいち)



平成 15 (2003) 年 6 月、法学部暑気払い (新宿センチュリーハイアットホテル、当時)
前列右から 5 人目が村上淳一先生